



交通施設配置状況

▼札幌駅北口駅前広場



▼札幌駅南口駅前広場



【札幌駅北口】

- ・北口駅前広場 1998年（平成10年）4月供用開始、駅前広場総面積／約19,500㎡
- ・バスターミナル … 1998年（平成10年）4月開業、5バース（待機10バース）
- ・タクシープール … 40台
- ・自家用乗降場 … 10台
- ・一般駐車場 … 北口地下駐車場、230台

【札幌駅南口】

- ・南口駅前広場 … 2000年（平成12年）3月供用開始、駅前広場総面積／約19,000㎡
- ・JR札幌駅 … 1880年（明治13年）11月開業、乗車人員8.6万人/日（H20年度）
- ・地下鉄 南北線 さっぽろ駅 … 1971年（昭和46年）12月開業、乗車人員6.1万人/日（H20年度）
- 東豊線 さっぽろ駅 … 1988年（昭和63年）12月開業、乗車人員2.7万人/日（H20年度）
- ・バスターミナル … 都市計画決定（S51.5.18）、1978年（昭和53年）9月開業
19バース（発着1,779便/日）
- ・路上バス停 … 東急前等、8バース（発着1,031便/日）
- ・タクシープール…45台

札幌駅周辺は、市民・来街者・観光客・外国人など様々な人々が訪れる交通の要衝であることから、交通の混雑など以下に示す交通課題を抱えている。

【交通動線の輻輳】

- ・ 駅利用に関するバス、タクシーといった交通に加え、周辺の商業施設を利用する一般車両との交通動線の輻輳、さらにはこれら自動車類と歩行者との輻輳によって、常に混雑状況を呈している。

【路上駐車による交通阻害】

- ・ 荷さばき車両、タクシーの待ち行列、駐車場への入庫待ちといった車列が走行車線を狭め、円滑な交通の流れを阻害している。

【変則交差点によるタクシー処理】

- ・ 南口タクシープールは、変則交差点のため、タクシー専用の信号現示を設けなければならず、北5条手稲通の青時間比が低い。

【ターミナル施設の老朽化】

- ・ 南口バスターミナルは開業（1978年（昭和53年））から30年以上が経過し、新耐震以前の建物であり、耐震性に課題がある。

【分かりづらい乗り換え動線】

- ・ JRや地下鉄からバスを利用する際、北口か南口か、バスターミナルか点在する路上バス停か、サイン不足などもあって分かりづらい。
- ・ 地下1階レベルでは、地下鉄東豊線への動線が分かりづらい。

このような状況に加え、新たな要素として、平成23年3月12日に、「札幌駅前通地下歩行空間」が開通し、札幌駅交流拠点と大通交流拠点が地下歩道でつながった。

これにより、札幌駅周辺と大通に二極化している都心商業圏が、四季を通じて安全で快適な歩行空間により結ばれることとなった。

今後は都心の回遊性が高まるとともに、沿道ビルとの地下接続や多様な活用を行うことにより、人々が憩い楽しめる空間を創出し、都心全体の魅力と活力の向上が期待され、人の流れや動きが変化することが想定される。

さらに、路面電車事業の経営基盤の強化や、まちづくりへの活用を図るため、「都心地域」「創成川以東地域」「桑園地域」の3地域を対象に路面電車延伸の検討が進められている。電車の札幌駅乗り入れなども含めた対応が求められる。

また、将来的な北海道新幹線札幌駅乗り入れや高速ネットワークへのアクセス強化なども視野に入れた対応が求められる。